

2008年錯体化学討論会シンポジウム

「レドックス金属錯体が拓く未来化学」

酸化還元（レドックス）は金属錯体を特徴づける重要な性質のひとつである。中心金属や配位子のレドックスは光吸収変化やクロミック特性を誘起し、置換反応や構造異性化などの分子ダイナミクスをも引き起こす。こうした特長を活かすことで、レドックス金属錯体を主体とした分子認識素子や触媒の開発が進んでいる。また、人工光合成系や電池などへの展開、電極表面でのナノ構造体の構築も活発に行なわれている。近年見られるこうした新しい流れは、錯体合成化学の深化をはじめ、ナノスケールでの分子集積技術、電気化学条件下での分子操作・直接観測技術に大きく支えられている。

本シンポジウムでは、レドックス錯体化学をユニークな切り口で展開する6名の研究者から話題を提供していただく。そのテーマは、新規なレドックス錯体系の構築、電子・エネルギー移動系の構築、レドックス誘起反応の観測、混合原子価状態の発現と電子状態解析、固液界面や液晶相での錯体集積・機能制御など多岐に渡る。本シンポジウムを通じ、レドックス錯体化学の現在を把握し、その新展開を共に展望したい。

